



カラフトアオアシシギの生息する湿原、沢への土砂の流入
この場所はサハリン1のパイプライン(既設)と並行してサハリン2のパイプライン敷設準備が行なわれて行われている。



カラフトアオアシシギの生息する湿原、沢への土砂の流入

サハリン2のパイプライン敷設準備のため、重機用のアクセス道路が川を横断して作られている。
これは沢に丸太を並べ土砂を被せた簡単なもので、沢内に土砂の流入が認められる。



カラフトアオアシギの生息する湿原、沢への土砂の流入
土砂をせき止めるためのビニールシート(奥の白い布壁)が認められるが、役に立っていない。



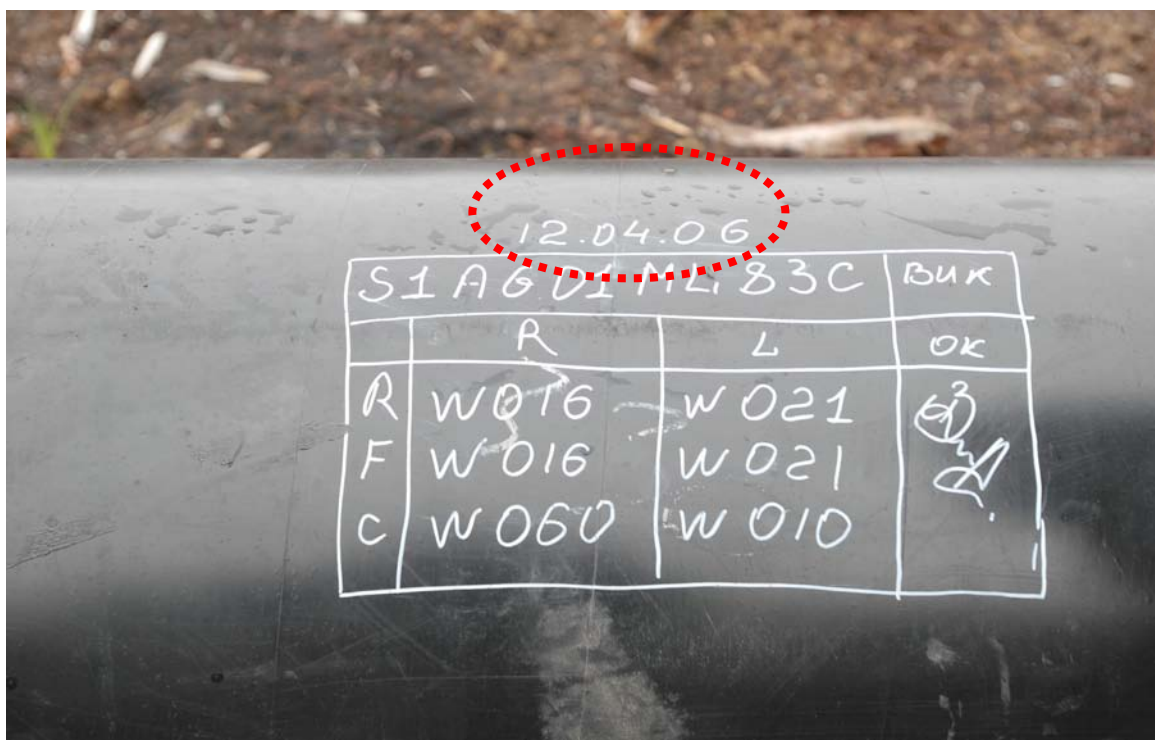
ハマシギ固有亜種などが生息する脆弱な湿原を横断するパイプライン



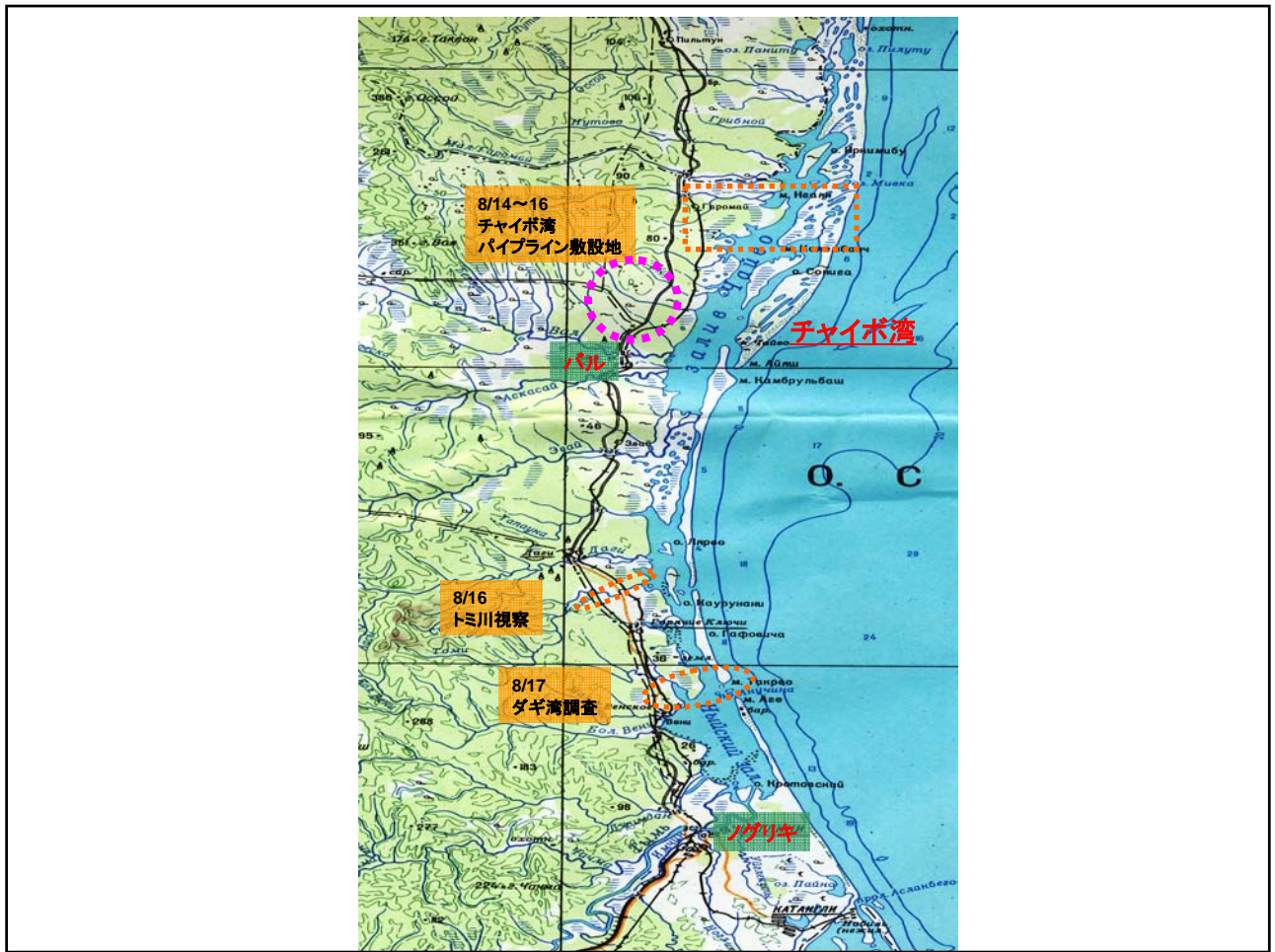
ハマシギ固有亜種などの生息する脆弱な湿原を横断するパイプライン
4本のパイプはいくつもの小さな湖沼を横断する。凍結と解凍を繰り返す脆弱な地形はパイプラインは、地震などの際に破断する恐れがあると思われる。生物に与える影響は甚大となるであろう。



オオワシの繁殖巣(右側)から300mの場所をパイプラインが通る



パイプライン工事(補修?)完了年月日はSEICが工事を行わないとしていた
3月15日以降であった。





パイプライン敷設工事現場

人の声や重機の騒音、光や振動などによる周辺環境への配慮は認められない。



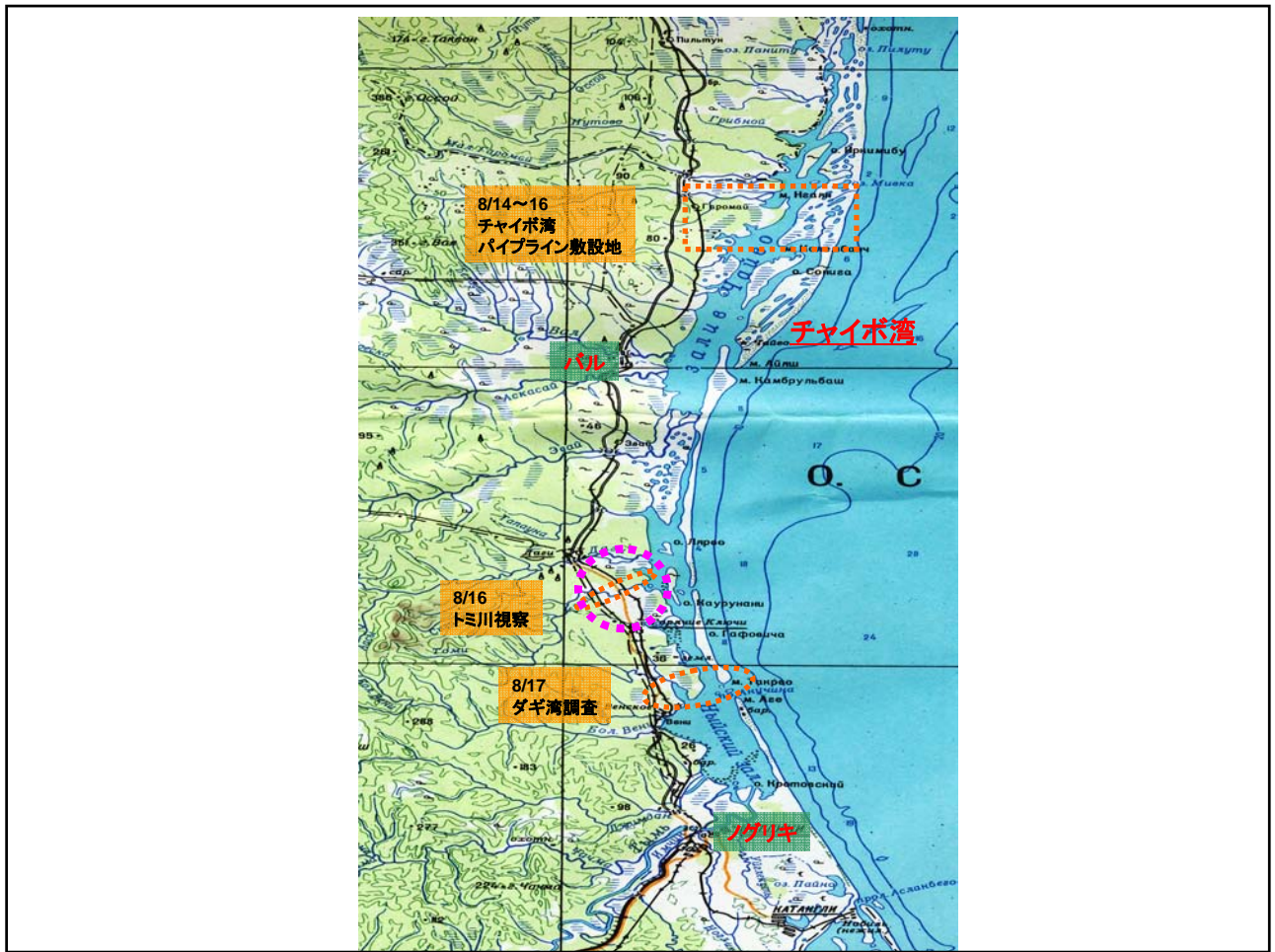
サケ・マス遡上河川の状況

河川への土砂流入対策として、ビニールシート壁が作られているが、流れ込む土砂の勢いが強く完全には阻止できていない。



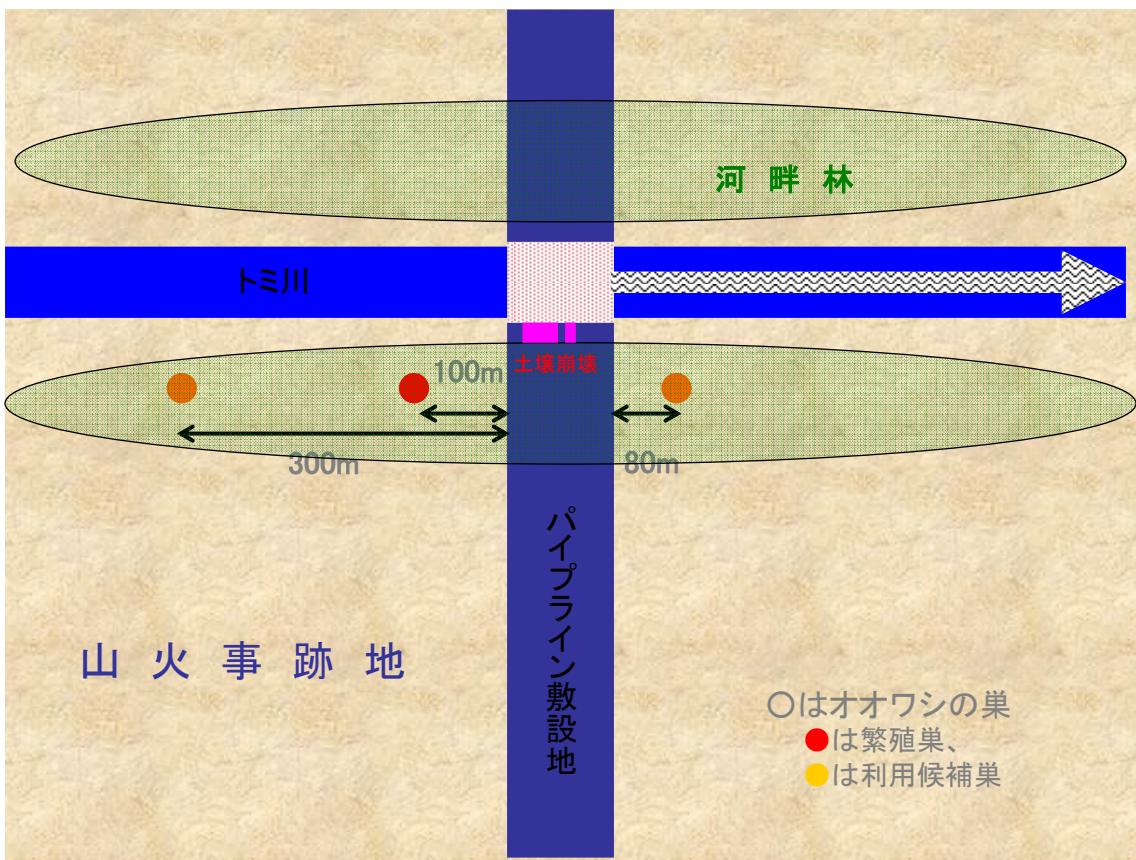
サケ・マス遡上河川と周辺湿原の状況

河川への土砂流入対策であるビニールシート壁は、降雨のたびに土砂によって破壊され(作業員談)、毎回補修を余儀なくされるという。これは降雨のたびに土砂流入が起きている証拠である。





パイプラインから80mの位置に存在するオオワシの巣
パイプラインがサケ・マス遡上河川を横断する箇所直近にオオワシの巣が認められた





オオワシ繁殖地の直近のサケマス遡上河川で認められる土砂流入
斜面に対する土砂の流出防止策は全く機能していない。



オオワシ繁殖地の直近のサケマス遡上河川で認められる土砂流入
多数の土壤崩壊(エロージョン)が発生している。オオワシの繁殖期中なので、改修工事を行なうことができないと地元担当者はいう。オオワシの巣を回避せずにパイプを敷設したのが根源。



オオワシ繁殖地の直近のサケマス遡上河川で認められる土砂流入
斜面を多量の泥水が流れ、河川に向かう。



オオワシ繁殖地の直近のサケマス遡上河川で認められる土砂流入
多量の泥水がトミ川に流れ込んでいる。